

知的障害者に働く場を

【愛知北】JA愛知北管内の、大口町の特定非営利活動法人（NPO法人）「MODS（モッズ）グリーンファーム」は、小松菜などを

の水耕栽培を通して知的障害者の就労を支援している。JAの青年部員が指導に当たり、現在は14人の障害者を持つ就労者とパート労働者の貴重な働く場となった。近隣のスーパーだけでなく保育園・小中学校への学校給食用の野菜として、同町役場を通じて安定供給を目指している。

生産野菜小松菜で施設水耕



小松菜の調製作業を行う就労者ら（愛知県大口町）

愛知県大口町のNPO法人 MODSグリーンファーム

目指せ安定供給 JA青年部員が技術指導

ファームは同県岩倉市に事務所を置き、2011年に障害者の自立支援と雇用の創出を目指し、同町に約30坪の水耕栽培ハウスを建設した。一般の事業所での雇用に加え、雇用契約を結ぶのが難しい障害者に、就労の機会を通して能力の向上を支援する「就労継続支援B型事業所」に該当す

栽培技術全般に指導するのはJA青年部員の川村孝志さん（40）。指導者として同世代の農業者と交流しながら、農業技術についての勉強を重ねているという。

同農場の一日は朝礼から始まる。川村さんらが作業に遅れが出ていないかを目配りし、「大丈夫

か」「どうしたの」などと声を掛けながら農作業をフォローする。就労者も楽しそうな表情で収穫を続けている。

昨年から収益向上に向け、周年栽培がしやすい小松菜に加えて、水菜やチンゲンサイなど生産品目を増やした。収穫した野菜は同法人の名前が入った出荷袋などに詰め

狭山茶 お土産に

商業組合が「和食の友」PR
スイスで提供

ら議
か会
うス
よボ
きタ

る。英文で緑茶の入れ方や狭山茶を紹介したちらしを添え、「すっきりした味わいで、渋味と旨味

が程よく調和。繊細な日本料理によく合い、素材の味を引き立てる」などと魅力をアピール。

繁田理事長は「世界の政財界のリーダーに飲んでもらいたい、狭山茶をPRする絶好の機会。おいし期待する。」

さや安全性を確かめてもらい、輸出が増えるきっかけになってほしい」と

1年ほどだったが、農作物を計画的に安定生産していくことが本場に難しいと感じた。青年部員らと情報を交換して、生産量を安定させていきたい」と話す。

同町の建設農政課も、「知的障害者の自立支援と地元食材の学校給食への安定供給、そして地元の雇用促進。全て重要なことで、今後の地域農業の発展につながる」とみ

日本一短い手紙コンクール「わすれない」つづる

40字以内で大切な人などに思いを伝える日本一短い手紙のコンクール「第21回一筆啓上賞」の大賞が21日発表された。「わすれない」をテーマに国内外から寄せられた4万以上の作品の中から、東日本大震災で被災した時の娘への感謝をつづった岩手県宮古市の主婦大浦みどりさん（37）らの5作が選ばれた。

大浦さんは「忘れないよ。3・11の夜、ぎゅっと握ってくれた君の小さな手が、ママにくれた勇気」と娘（4）に励ました思い出をつづった。京都市の山田芽依ちゃん（5）は亡くなった祖父に「おほしになってしまったけれど、わすれないよ。でも、めい、かなしくておほしがみれない」と書いた。